モウコノウマにおける輸送箱内での転倒によるミオパチー症状の発症と回復について

○中村　浩隆
（横浜市立よこはま動物園）

モウコノウマはモンゴルや中国などの中央アジアの草原に生息する世界で唯一の野生馬である。当園では、2023 年１月に本種を初めて導入し、飼育展示を行ってきた。2023 年 12 月 20 日に搬入が遅れていた雌１頭を東京都多摩動物公園から搬入したが、輸送中に輸送箱内で転倒し、到着時には箱に引っ掛かり起立困難な状態であった。そのため両前肢に平帯をかけて輸送箱から全身を引きずりだしたところ、間もなく起立し自ら寝室に入った。搬入時、顔面等に複数個所の擦過傷等は確認されたが、歩様等に異常は見られなかったため、翌日より他個体との同居馴致を進め 12 月 22 日から展示を開始した。しかし、搬入後３日目の 12 月 23 日午後から歩様に異常が見られ、ミオパチーと見られる歩行困難な状態に至った。加えて、尿量の減少、ミオグロビン尿と思われる赤褐色の尿の排出といった横紋筋融解症とみられる症状が見られたため、搬入４日目にあたる 12 月 24 日から展示を中止し、終日寝室に収容し、加温、温水給与するなどの処置を行った。その後、12 月 30 日以降尿の色、排出量や歩様などに回復傾向が見られ、翌年１月２日より展示再開に至ったので、その経過について報告する。